

会議報告書

会議名	令和5年度第1回白井市郷土資料館運営協議会会議		
場所	白井市文化センター2階 かおりホール (中ホール)	日時	令和5年7月25日(金) 15:30~16:45
報告者	生涯学習課 学芸係	職・氏名	学芸員 齋藤 郁音
出席者	(委員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・横山委員・川島委員・森山委員・大川委員(6名) 2名欠席 (事務局) 井上教育長 生涯学習課 山本課長 戸谷係長 郷土資料館 齋藤学芸員 石戸学芸員	傍聴者	0名

1. 開 会

2. 委任状交付

3. 教育長挨拶

○教育長より

コロナが5類に移行して街も賑わいを取り戻しつつある。このコロナ禍での経験をプラスに活かして、よりよい今後の運営に繋げればと思っている。郷土資料館は来年に30周年という大きな節目を迎えるため、この1年を重要な準備の年にしてもらいたい。

4. 議題

白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる

(1) 令和4年度事業実施状況報告について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明を行う
協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委 員：開館日数が昨年度より減っているにも関わらず来館者数が増えているのはなぜか。

事務局：開館日数に関しては企画展のための展示替え期間を取っていたほか、展示室の中に点検口を設ける工事があったため休館していた時期があった。来館者数の増加はコロナ関係が緩和されて外出する人が増えてきたことと、企画展の開催によるものと思われる。

委 員：整理・報告書作成・デジタルカメラ活用等、研修の主催と開催場所はどこか。

事務局：県が設けている文化財担当者に対する研修機会を利用させてもらった。具体的な名前が必要であれば後ほど調べてお伝えする。

委 員：新規寄贈に関しては写真等があればイメージがわくと思うがどうか。

事務局：会議の席でもわかりやすいよう、今後対応させていただく。

会 長：体験教室について、大福帳づくり、あんぎんづくりなどは定員割れを起こしている。これは広報が足りていないのではないか。

事務局：広報は行っているが、地味ということもあって大福帳は今年も人が集まっていない。

今後対応を考えていかなければならないと思っている。

会 長：大福帳づくりは近隣で行われておらず白井市の目玉になると思うので、タイトルを工夫するなどしてもう少し宣伝したほうがよいのではないか。

事務局：何かいいアイデアがあればお伺いしたいと思う。

委 員：大師関連の資料調査と清戸村関係古文書目録作成を行ったと資料にはあるが、それらは展示以外に報告書や目録などといった形になっているのか。また、清戸村関係の古文書はどれくらいあって、それらは公開されるのか。そして資料購入のための予算があると思うが令和4年度は何か購入したのか。

事務局：まず大師関連の調査に関しては企画展を行うためのものであったため、展示と展示資料といった形で活かしている。次に清戸村関係の古文書については、今年度新しく発行された目録があると思うが、五十嵐家文書の後から寄贈いただいたものに関して仮目録を作成中である。令和4年度中の資料購入はなかった。

会 長：企画展の準備以外に、牧などといった地域性のある内容の基本調査は行われているのか。企画展がらみでなくてもやっていかななくてはならないことだと思うが、毎回それが見えてこない。館として学芸員が継続的に調査へ取り組んでいるのか。

事務局：ここ数年職員体制が変わってしまい、方向性を共有して調査するのが難しい。今の状況だと、1人ずつ企画展に取り組んでそれを発表するのが精いっぱいである。また、これまではコロナの関係で外に出にくかったというのもある。ただ、今後に関しては何かしら白井市郷土資料館らしい、ひとつの特色を出すような調査をしていく必要があると考えている。来年度は郷土資料館30周年ということもあり、色々なことを並行して進めたいのだが、そこまで達していないのが実情である。

会 長：今年の体制は以前に比べてずいぶんよくなったと感じるので、ぜひ郷土資料館らしい調査体制を構築し進めていってほしい。

～ 以上で令和4年度事業実施状況報告についての質疑終了 ～

(2) 令和5年度事業計画(案)について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明
協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委 員：まず1点目、先ほど話題に出ていた体験教室だが、定員に対して人数が集まらない場合には今後別の内容を検討していくのか、それとも周知を図ることにより人を集める方向性で考えているのか。それからもう1点、学校団体の見学について、市内だけでなく市外からも来ているのか。

事務局：体験教室、特に大福帳づくりに関してはやはり地味なのが課題であると思う。まが玉と被らないよう開催時期をずらしたり、よりカラフルなものを作れたりするように内容を変えていく方向性で考えている。学校団体は市内よりも市外の方が利用する割合は多い。この周辺だと松戸や柏の学校が時折利用してくれるが、コロナによる人数制限の関係で断ったことがある。今後はそういった制限も撤廃されていくので利用者数は増えるかもしれない。

委 員：せっかく白井にある郷土資料館なので、白井市の子供たちがこの時期に利用できるような施設になっていけばよりよいのではないか。小学校は3年生で地域の歴史、4年生で文化財について学習するため、そういった内容に対応できると各学校に知られたらより活用されるのではないかと思う。ぜひそういったところで学校とうまく連携してほしい。

委員：1点目、今年度は新収蔵資料展示をやらずに昭和レトロ展示を行うのか。2点目、YouTube 公開用動画の撮影・編集について、今年度完成させて公開するのか。3点目、古文書修補のスタッフは人数をもっと増やした方がいいと思うが、募集期間を決めているのか、それとも常に募集をかけているのか。

事務局：新収蔵資料展示については前年度に収蔵した資料が展示として見栄えしないことから、昭和レトロ展示をやらせていただく方向性になった。

YouTube 公開用動画の撮影・編集に関しては若い職員でないと難しいということもあり難航している。時間がかかるものと思っている。

古文書修補のスタッフは特に期間を定めず、継続的に見学に来てくれた希望者を受け入れている。既存のスタッフが技術を教えるという点で、1年に受け入れられるのは1人か2人が限度だと考えている。

委員：先ほど昭和レトロ展示を見てきたが、定期的に展示替えは検討されていないのか。今年企画展がないので、少しでも変化をアピールするために昭和の物品を定期的に展示替えした方がいいのではないかと。

動画に関しては、担当者が異動してしまう可能性を考えると、その年のうちに完成させなければならないという課題が見えたと思う。最近だとストーリーのある長い動画よりも短い動画の方が好まれるという話もある。市の広報という位置づけでなかなか難しいとは思いますが、短い動画を公開して来館者数が増えるというリズムが生まれればいいのではないかと。

事務局：若い職員に聞きながらやらせていただきたいと思います。

事務局：事務局側からも1点相談させていただきたい事項がある。最近、古文書を全点悉皆調査させてほしいなどといった申し込みがあり、非常に困っている。今後は閲覧の回数制限等を設けなければならないかもしれないと検討しているが、その点について皆さんどう思われるか伺いたい。

委員：逆にそういった人をうまく取り込んで、古文書を読解するボランティアとして活動してもらうのはどうか。

事務局：古文書を読んでもらうことに関しては既にさくらぎ会がいる。見せる際にも職員が立ち合う必要があり、業務の時間を個人のためだけに割く訳にはいかない。

委員：資料をデジタル化してそれを公開するというのはどうか。原本でなくては駄目だということなのか。

委員：データの公開に関しては、色んなところに意見を伺った上で行った方がいいと思うが、見せる際にデジタルで対応するのは良いのではないかと。保存のことを考えても新たな展開としてデジタル化は必須だと思う。

事務局：原本すべての閲覧を求められているので困っている。

委員：閲覧日を設定して、点数も制限するという形で対応したら良いのではないかと。こちら側としてはこれが限度であると態度を示したら良いと思う。

～以上で、令和5年度事業計画(案)についての質疑終了～

事務局：その他なければ本日の会議はこれで終了させていただきたいと思います。(終)